



萩東中だより



2020年
3月26日

〒758-0025 萩市土原556番地 TEL0838(25)2721 FAX0838(25)3721
e-mail higashi-jh@edu.city.hagi.lg.jp

NO.23

一年間お世話になりました。

4月から学校が正常に再開できることを楽しみにしています。

3月7日、無事卒業式を挙行することができ、3年生147名が萩東中学校を巣立っていきました。卒業生と保護者、教職員だけの卒業式でしたが、多くの方々のご理解とご支援のお陰で、卒業生にとって心に残る卒業式になったことと思います。

また3月13日には、公立高校の合格発表がありました。学校としては、卒業式は終わっても、全員の進路確定を見届けるまでは、本当に卒業させたという気持ちにはなれません。もちろん第1志望の高校に合格するに越したことはありませんが、大切なことは、決まった進路先でどれだけ頑張ることができるかです。3年後に、この学校に進学してよかったと、胸を張って言える高校生活を送って欲しいと願っています。

突然の臨時休校で、一年間の締めくくりが中途半端になってしまいましたが、皆様のおかげで、無事令和元年度を終了することができました。保護者や地域の皆様には、一年間大変お世話になりました。物心両面にわたるご支援、どうもありがとうございました。4月から学校が正常に再開できること、子ども達が元気に学校に戻ってくることを楽しみにしています。

(校長 網本 徳文)



全員マスクをして参列

第23回卒業証書授与式

来賓、在校生は不在でしたが、厳粛かつ盛大に挙行することができました

<式辞> 萩東中学校 校長 網本 徳文
(略)

※抜粋

ご覧の通り、今年の卒業式は、例年とは大きく異なる状況の中で行うこととなりました。憧れの先輩との別れを惜む在校生の姿がありません。いつも皆さんを見守り可愛がってくれた地域の方々もいません。祝辞もありません。歌もありません。一人一人に卒業証書を手渡すこともできませんでした。日本中の学校が臨時休業という、非常事態の中で行う卒業式です。

それでも私たちは、この卒業式を、皆さんの一生の思い出に残る、これまで以上に立派な卒業式にしたい、出席できなかった在校生の分まで、皆さんの晴れの門出を祝福したいと考えました。在校生がいないため、会場や教室の飾り付けは、教職員が総出で、心を込めて準備をしました。主役がいない体育館で、教職員だけで予行練習を行いました。そして、今、皆さんは、このような状況にもかかわらず、これまでの先輩に負けない立派な態度で、この卒業式に臨んでくれています。皆さんがいつもめざしてきた、「バース・オブ・レジェンド」。今日の卒業式は、まさに伝説として後世に語り継がれることでしょう。

さあ、卒業生の皆さん。羽ばたきの時です。近代日本の幕開けの中心地となったここ萩市で生まれ育ったこと、吉田松陰先生の教えを脈々と受け継ぐ萩東中学校で、かけがえのない友と一緒に学んだことに胸を張って、「ふるさと萩を愛し、志に生きる」人となってください。皆さんが主役となる時代は、もうそこまで来ています。

最後に、卒業生の皆さんの今後ますますの活躍を祈念し、今日まで学校教育に多大なご理解とご協力をいただいたご家族の皆様にご心から感謝申し上げ、校長の式辞といたします。

＜答辞＞ 卒業生代表 河名 淳哲

※抜粹

(略)

三年生。学年のスローガンは「笑顔」となり、苦しいこともあったけれど、常に笑顔で乗り越えてきました。修学旅行では、一年生のときの自然教室よりもはるかに落ち着いて過ごせるようになりました。二日目の班別研修や三日目のUSJでは、みんなが時間を守ることができました。三年間の成長を感じることができた修学旅行でした。五月に元号が令和に変わり、令和元年度として、「すべてのことが伝説に残るようにしよう」という思いが私たちの中で自然と定着しました。

体育祭。夏休みの暑い中、三年生を中心に応援団や実行委員は準備をしてきました。応援団長と実行委員長長の四人は、みんな個性豊かで、暑さを吹き飛ばすくらいみんなを笑わせてくれました。気づくと、色を問わず、全校生徒が一丸となって、三冠よりも上にある、目には見えないものをとりにっていました。この体育祭を通して、私たちは、クラスや学年を問わず、みんなが仲よく、協力できるようになりました。

文化祭では、最後の合唱コンクールということで、各クラスの練習への熱が強くなりました。幾度かもめることもありましたが、自分たちの歌う曲の意味を理解して、本番では、どのクラスも最高の合唱ができました。

しかし、僕には、体育祭や文化祭以上に、忘れられない日があります。七月一日、生徒集会。あの日、全校で歌った校歌を思い出すと、今でも鳥肌が立ちます。それまであまり考えなかった、校歌を歌う意味について考えました。そして校歌を歌っていくうちに、学校が一つになるのを肌で感じました。あの日、僕たちは確かに、伝説を一つ、作りました。

そんな仲間とのかけがえのない思い出がたくさん詰まった、最高の三年間でした。この三年間を一緒に笑顔で過ごした、百四十七名とともに、感謝を伝えたいと思います。(略)



＜送辞＞ 在校生代表 後藤 遥香

※抜粹

皆様とお別れを惜しむ間もなく、今日の日を迎え、より淋しさがこみ上げております。本来なら在校生一同でお見送りするところですが、それは叶わないことになり、もっとお話ししておけばよかった、もっと共に過ごしたかった、という思いがあふれてきます。(略)

校歌を盛り上げようと一年間続けてきた、生徒会活動。五月の生徒総会で先輩方が自ら周りの人の何倍も大きな声で歌っておられた姿。手をつなぎ、皆で歌うことの楽しさを学校全体で分かち合おうとくださった姿。先輩方の姿は、これからの萩東中学校を作っていく私達をいつも励ましてくれる宝物として心の中で温かく輝き続けることでしょう。

私の好きな歌の歌詞に、こんな言葉があります。「そう簡単じゃないからこそ 夢はこんなに輝くんだ」今、思い出を胸にしまい、卒業を迎えられた皆様の前には、それぞれ新しい扉が開かれています。夢に向かって歩いていく、新しい道は、平坦な道ばかりではないかもしれません。しかし、辛く険しい道のりを乗り越えた先には、輝いている夢が待っています。いつか輝く夢にたどり着けるように、追い風を受けて進むときだけでなく、険しい坂道を歩むときにも、少しずつ歩み続けてください。皆様が中学校生活三年間で培ってこられた、強くしなやかな心で、自らの可能性を信じ、一步一步前進してください。



学級でのお別れ (担任の話)



廊下の様子 (教員の飾りつけ)



記念撮影 (男子バスケ部)